

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立赤松小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が示す学校教育デザインを受けて、教職員が学校評価項目(成果指標・具体的取組)を考え、たえず意識してそれぞれの教育活動にあたることができた。また、各部での取組も活性化した。 ・学力向上については、校内研究や学力向上研修会をとおして全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。今年度は、「自ら学ぶ-自分で考え、自分で決める-」授業へとさらに改善を図りたい。 ・コミュニティスクールの推進については、学校運営協議会、まちづくり協議会、公民館等、協働体制が整っている。今後は、さらに学校でも地域人材を活用した授業を取り入れるとともに、公民館地域行事への参加を児童に促したい。
2 学校教育目標	<p>ふるさと赤松を大切に、志をもって行動できる子どもの育成</p> <p>【めざす子どもの姿】 あいさつする子 かんがえ こうどうする子 まげずにがんばる子 つながる子やさしい心で</p>
3 本年度の重点目標	<p>〈今年のスローガン〉 well-being ~みんなが~</p> <p>【自ら学ぶ-自分で考え、自分で決める-】 ◆学び方はペース・学習内容に選択肢のある授業 ◆自らやりたくなる探求的な学び(活動・体験)</p> <p>【豊かな心-自分も、みんなも幸せに-】 ◆みんなあそびの学級・学校づくりの取組 ◆「誰一人取り残さない」SDGsの視点を取り入れた総合的な学習の時間・人権教育等</p> <p>【たくましく生きる-チャレンジ-】 ◆生活科・総合的な学習の時間における試行錯誤しながら、粘り強く取り組む活動 ◆佐賀県スポーツチャレンジの取組</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◎【自ら学ぶ-自分で考え、自分で決める-】授業の実践 ◎【試行錯誤を繰り返し、粘り強く学びに向かう児童の育成】を目指す。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○每学期末のアンケートにおいて「自分が幸せか」「みんなが幸せなクラスだと思うか」「みんなが幸せなクラスのために何か行動しているか」について肯定的な回答80%以上 ○フリー参観(6月または11月)で、保護者参加型の道徳を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のきまりに児童の意見が反映されるような機会を設定する。 ・各学級において、学級のきまりに児童の意見が反映されるような機会を設定する。 ・道徳の授業を要として、様々な場面において、機会をとらえて考え、交流させることで自分の考えを深めさせるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が幸せ」、「何か行動しているか」については両項目とも上昇傾向にある。子どもに「みんなが幸せ」の意識がさらに浸透するよう、活躍の場を設定し、支援していきたい ・保護者参加型の道徳の授業は、100%達成、保護者アンケート「心の教育の充実を図る取組を行っている」の肯定的な回答は94%。保護者参加型の授業を今後も計画的に行う必要がある。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○「困ったときは、大人の人に相談していますか」と回答した児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学級との情報交換を密に行い、生徒指導の体制について分析、修正を行う。 ・子ども支援全体や連絡会等で児童の情報を全職員で共有し、対応していく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「困ったときは、大人の人に相談していますか」と回答した児童76%と目標達成までには至らなかった。今後は、引き続き取り組んでいくとともに、教職員から児童への呼びかけを行っていく必要がある。
	●児童生徒が志をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標(志)を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 ◎地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた授業や活動 各学級100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と児童とが個別に話をするひだまりタイムを年2回設け、児童の声を拾いやすい体制づくりを行う。 ・総合的な学習の時間を通して、地域の人々と環境、偉人についての学習を行うことで、自身のキャリアとつなげて考えることができるような課題を設定する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにおける数値目標を達成できた。今後は、ひだまりタイムをはじめとした、児童の声を拾いやすい体制づくりを続けていきたい。 ・全学級が地域の「ひと・もの・こと」を取り入れた学習活動を行うことができた。今後は、さらに地域資源を活用できるよう心掛け、身近な課題を取り入れることで児童の学習意欲やキャリア教育につなげていきたい。
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツチャレンジの取組 各学級1種目以上、5回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段運動をしない児童も積極的に運動をしている児童も、運動に対する意欲を高め、仲間と共に運動に親しみ契機としてスポーツチャレンジを実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への声掛けの結果、63%の職員がスポーツチャレンジの取り組みを5回以上行った。職員全員達成はできなかったが、児童の運動に対する意欲を高めることができた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。 ・学年主任会等とおして、行事や業務の目的を浸透させ、スムーズな学校運営に資する。連絡掲示板を多く活用する。 ・「報告・連絡・相談」を徹底し、保護者対応の時間を減らす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針の浸透による業務の精選と指導の効率化、学年での協働的な取り組みにより、時間外勤務が減った。また、職員のタイムマネジメントへの意識が少しずつ向上し、退勤時間が全般的に早くなった。後期は、長期休業等で課業日が少ないこともあったが、月の時間外在校時間平均45時間を超える職員はほとんどいなくなった。
●特別支援教育の充実	○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し、UD化を実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化	<ul style="list-style-type: none"> ○通常の学習や生活指導において、合理的配慮を行っている」と回答できる職員が90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の困り感に寄り添い、早期発見、早期対応を行う。 ・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりを生かす。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートの結果は、継続して100%であり、合理的配慮についての意識が定着していると言える。教室環境の整備、個に応じた教材の準備など、UDやインクルーシブ教育への取り組みを意識した実践がされている。 ・保護者アンケート「個の違いに配慮した教育を行っている」について、肯定的な意見は93%と前回よりも向上している。児童の実態に応じた支援を今後も続けていく。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度(評価)	実施結果
○コミュニティスクールの推進	○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ○活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域活動への参加意識を昨年度よりも3%高める ◎わくわくカードの内容を工夫し、8以上スタンプを集めることができる児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信し、より多くの方の理解や協力を得る。 ・公民館やまちづくり協議会にもスタンプを預け、地域行事に参加した際にスタンプをもらえるようにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の発信強化により、保護者の認知は83%から88%へ、職員の児童への働きかけも93%へと向上した。地域参加の促進に向けた取組は一定の成果が見られ、保護者の参加は67%、児童のスタンプ4個以上獲得率は24%に向上した。しかし、目標値を大きく下回っており、参加機会の拡大や働きかけの工夫など、さらなる改善が必要である。
○レインボー週間の徹底	○教員・保護者共に、意識を高くもって、レインボー週間へ取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習時間の目標(低学年30分、中学年45分、高学年60分)の達成率80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レインボー週間を実施する直前に、家庭で意識すべきポイントをレインボー便りでお知らせする。 ・レインボー週間を実施する直前に、校内で意識すべきポイントを、各学級スライドで確認する。 ・レインボー便りや学年便り、学級便り等で、レインボー週間の振り返り(コメントや統計によるもの)を行い、保護者へのフィードバックを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の目標の達成率は79%であった。 ・実施にあたり、毎回便りを発行し、取組への意識付けを強化した。また、実施後は、記録をもとにデータを集約し、達成できた点や継続が課題となる点を記した便りを低中高毎に発行し、取組状況を共有し、児童・家庭への意識付けを図った。 ・データ化したことで、クラスや学年、全校児童等の全体的様子、把握しやすくなった。一方、個人の取組み状況が見えづらくなったのが課題である。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標「ふるさと赤松を大切に、志をもって行動できる子どもの育成」今年度のスローガン「well-being ~みんなが~」を、教師がたえず意識してそれぞれの教育活動にあたることができた。その成果が最終評価の結果にも表れていた。 ・いじめについては、今年度も「心のアンケート」や「ひだまりタイム」等を有効に活用し、学年主任や管理職に報告・連絡・相談を徹底した結果、大きな事案に発展することもなかった。今後は早期発見・早期対応に努めていく。また、「みんなが幸せ」な学校づくりに向けて、子ども達自身に考えさせ、自分たちで学校・学級をよくしていこうとする当事者意識を育みたい。 ・学力向上については、全職員が同じ意識をもち取り組むことができた。さらに、効果的な「学び方やペース・学習内容に選択肢のある授業」「自らやりたくなる探求的な学び」に向けて、教職員が研鑽を積む必要がある。 ・コミュニティスクールの推進については、学校運営協議会、まちづくり協議会、公民館等、協働体制が整っている。今年度は、学校運営協議会の御協力のもと、地域の企業からも資金面を含め多大なるご支援をいただくことができた。今後は、学校運営協議会委員の方、保護者、児童の意見をもとに、さらにコミュニティ・スクールを発展させていきたい。
----------------	---